

感謝

平成二十五年十月一日

平成二十五年十月三十一日

愛寿会・仁生園・第二仁生園への ご協力ありがとうございます。

いつもご協力をいただき心から感謝申し上げます。今後とも利用者の皆様に、よりご満足いただける施設運営を目指し役職員一体となつて誠心誠意努めて参ります。

何卒、これからもご支援のほどを、また、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。略儀ながら、お礼状に替えさせていただきます。

ボランティア活動

- ・レクボランティアほがらかグループ
代表 吉田 道子 様
- ・レクボランティアゆずっこの会
代表 佐野 恭子 様
うたなかま八ヶ岳 様
保 坂 多枝子 様
北杜市 井 上 早智子 様
北杜市 三 村 明 子 様
北杜市

愛寿会後援会へのご協力

- ・北杜市大泉町 浅 川 治 泰 様
- ・北杜市小淵沢町 小 林 健 展 様
- ・北杜市小淵沢町 (有) 宮坂自動車 様

防 災 訓 練

十月二十三日(水)午後七時から、仁生園の全職員を対象として夜間防災訓練を実施しました。

一階の厨房付近からの失火を想定し、「火災報知機設備」の作動状況や、職員の「非常召集連絡網」の対応状況などを再確認しました。

入所者の避難誘導や初期消火は、夜勤者及び宿直者八名が実施し、それ以外の職員に対する非常召集連絡は、火災発生(想定)後、おおよそ十五分以内には全ての職員に伝達することができ、約六十名の職員が登園して来しました。



今回は、「炊出し」を行い、日ごろあまり馴染がない「塩むすび」を賞味することもでき、訓練は午後八時に終了しました。

当日は、北杜市消防団長坂分団第六部から三名の派遣を受け、訓練の実施状況・内容等についてご確認

をいただき、講評をお伺いすることができました。緊張した面持ちで訓練に臨んだことを評価していただきました。

雨模様の寒い中ではありましたが、有意義な訓練となりました。



「面会」の皆さま

手指の消毒などにご協力を!

仁生園・第二仁生園 共通

お手数をおかけしますが、施設利用者の健康を守るために左記の七項目をお守りくださいますようお願いいたします。

- 一、ご面会は、なるべく午前九時から午後五時の間にお願いたします。
- 二、出入口は、正面玄関からのみとしてくださるようお願いいたします。
- 三、ご面会の際には、必ずマスクを持参してください。
- 四、玄関に入りますと正面に消毒液が設置されておりますので、手指を丁寧に消毒してください。
- 五、ご面会に訪れたことを事務室にお話してください。その際、体調の悪い方にはご遠慮いただくことがあります。
- 六、それからワーカー室に向い、来意をお伝えください。
- 七、ご面会の際には、マスクの着用を基本にお願いいたします。

愛寿会のサービスに何かご意見・ご要望がございましたら、また、施設見学等のご希望がございましたら左記までご連絡ください。

- 仁 生 園 電 話 0 5 5 1 (3 2) 3 3 4 0
- 第 二 仁 生 園 電 話 0 5 5 1 (3 2) 8 2 7 0

愛寿会だより

11月号
第173号
平成25年
11月1日発行



板山賢治会長のご長逝…心より哀悼の意を表します

顧問（前理事長） 小澤 澄 夫

心より哀悼の意を表します。

去る九月二十二日畏敬する板山賢治会長のご長逝になられました。病床に伏されたのは二ヶ月半、その間も執筆に口述に余念がなく、ご最後もご家族に見守られ、いとも平安眠るようであったとのこと。「板山会長らしい見事な終焉…」と私は心底羨ましくも思っております。

今年には愛寿会発足から四十周年に当たります。十月三日に記念式典が行なわれました。

板山会長は数年前から四十周年を非常に楽しみにしておられました。「少なくともそれまでは元気でいるよ」が口癖でした。それを待たずにご昇天になられたのが残念の極みです。

水を飲む人は井戸を掘った人のことを忘れてはならない。

中国の古諺です。

板山会長は今年一月の愛寿会だよりに「法人創立四十周年の春にあたって」と題し寄稿されています。その文はそのまま四十周年記念誌にも載っています。

それには、創設に関わった方々として初代理事長平井一満氏、二代目理事長平井一雄氏、地元小荒間の坂本清満氏、同じく瀬戸英賢氏らのお名前が記されています。そのほか、板山会長は大八田の山本正之氏、堀内信賢氏の話もよくされていました。

これらの各位が愛寿会という井戸を掘った方々であることは確かです。ですが、本当に創設時にエンジンの役割を果たされたのは板山会長であったと私は確信しています。井戸掘削の実質的な推進役であったといつて過言に非ずです。

当時板山会長は厚生省老人福祉課の課長補佐の任にありました。特別養護老人ホームの監督課です。まさか愛寿会の役員に名を連ねるわけには参りません。

しかし、設計、施工、組織、財務等々万般にわたっての無二の相談役であったことは事実です。当時のことを前記の各位は、「何から何まで本当に世話になった」とよく私に話して下さいました。

愛寿会中興の祖…これまた板山賢治会長

板山会長は、平成八年七月二十四日から平井一雄理事長に請われ三代目理事長としてその職を担われることになりました。

当時、「日本の社会福祉の第一人者が田舎の特別養護老人ホームの理事長をお引き受けとは…」と県内外の社会福祉法人から羨望頻りでした。私は、板山会長のふるさとへの特別な思いがあったゆえと思っております。

理事長在任十二年、その間に老朽化した仁生園の全施設を一新し、障害者福祉施設第二仁生園を新設し、法人全体の組織と財政の基盤を確固不動のものとするなど特筆すべき業績を次々挙げられました。

文字通り愛寿会中興の祖であります。

愛寿会の役員員みなで力を合わせ板山会長の志を引き継いで行こう。

愛寿会三つの基本方針と七つの誓いは、板山会長が理事長就任早々熟慮補充のうえ、法人のいわば憲法としたものです。

生涯を我が国の社会福祉の前進のために捧げ尽くされた板山賢治先達の特別養護老人ホームに対する理念といつてよいと思います。

その意を体し、愛寿会の灯を一層明々ともし続けること…それが、その警咳に接した私どもに課せられた責務と思えます。

それを果たすために精いっぱい力を尽くすことを故人の御霊にお誓い申し上げ、蕪辞ながら追悼のご挨拶に代えさせていただきます。

仁 生 園

バスハイキング

十月十七日(木)、清里方面へ紅葉を見にバスハイキングへ出掛けました。

当日は晴天に恵まれ、「まきば公園」から見るパノラマの山並みの景色は格別でした。



参加された入所者の皆様は、お茶とお菓子を張りながらしばし時を忘れて見入っておられました。

帰園後「また行きたい」「とても楽しかった」「リフレッシュできた」等の感想をいただき、とても嬉しく思いました。

口腔ケア指導研修

大泉診療所歯科医師のご協力のもと、定期的に入所者様全員が歯科往診を受けています。

口腔内について不明な点や困っていることなどをアドバイスして下さったり、日頃の口腔ケアの大切さを学んだりしています。

清潔な口腔内を維持していただけるようケアに努めます。



グループホーム「やすらぎ」名水の里まつり in 三分一湧水に参加

十月二十七日(日)、小荒間地区のお祭りに出かけ、温かいそばすいとん、つきたてのお餅、抹茶等をいただきながら、地域の方々と交流し穏やかな秋の一日を過ごしました。

日頃ホームで制作している手芸作品等を文化祭にも展示すること



ができ、入居者の皆様の作品を見ていただく機会を設けていただきました。作品作りにも張り合いが持て、来年に向けて頑張りたいと思います。



腰痛対策研修

今回の研修では、日頃職員が大変苦勞して介護をしている入所者様の移乗について講義をいただきました。

内容としては、体重が重く体

を突っ張る方や体に痣が付き易いため二人介助にて対応している方などをモデルに説明を受けましたが、ベッドの上げ下げを細目に行う方法やその人に合った車椅子などの適切な介護用品の選択についてアドバイスをいただきました。

ワークだけでは、解決出来ない問題もあるので今後施設の中で話し合いながら少しずつ改善できるように進めて行きたいと思えました。



第二仁生園

サツマイモ掘り

十月二十三日サツマイモ掘りをしました。この五年來、利用者様ご家族の篤志で葦崎市新府の畑へ出向かせてもらっています。

掘っている内に長さ二十センチ以上もあるサツマイモの収穫に利用者様もビックリ顔でした。一生懸命掘ったサツマイモはこんなに沢山です。

「焼きイモにしたら美味しそうじゃん」「スイートポテトも作ろうか」と干しているイモをながめながら話をしました。おやつ作りの日が楽しみです。



ハロウィンパーティー

十月三十日ハロウィンパーティーでゲームを楽しみました。

アメリカなどで秋の収穫を祝い、悪霊などを追出す宗教的な意味合いのある行事とされていますが、この日は、二チームに分かれ「ビーチボール渡しリレー」「しりとり伝言ゲーム」「ジェスチャーゲーム」「じゃんけんゲーム」で皆さん盛り上がりました。

両チームのチームワークが良かったので、仲良く引き分けです。

ゲームの後は、お菓子を食べてながらお茶を飲み楽しい笑いで、まさしく悪魔は逃げて行ったかも知れません。



職員紹介

平成二十五年十月一日、一部職員の配置替の発令が行われました。新たな職場での抱負などを語っていただきました。



第二仁生園

サービス管理責任者

藤原 啓治

十月一日より第二仁生園の任務に就くことになりました。皆様のご指導、ご協力を賜り、誠に微力ではありますが、頑張る所存であります。どうか宜しくお願い申し上げます。

福祉の仕事に携わり早十年が経ち「明るく、楽しく」をモットーに、利用者の方々が安心感を持って生活できる様に日々取り組んで参りました。質の高いサービスを提供できたかどうかは判断しかねますが、今後とも足りないものを顧みながら職務に当たりたいと思います。

さて、第二仁生園では、身体に障害を持つ方々が安全に生きがいを持ちながら生活ができるよう支援をしているのですが、短期入所（ショートステイ）のご利用申込みも受け付けております。ご家族で介護されている方が、冠婚葬祭や旅行で介護ができない時や、ご利用者本人の気分転換にもなりますので、お気軽に直接第二仁生園或いは住所のある市町村の障害福祉窓口にお問い合わせください。

閑静な立地の中での滞在をお楽しみ頂けるかと思えます。



第二仁生園

管理栄養士

中田 有紀

四月から社会福祉法人愛寿会へ勤めて半年が経ちました。

入社当初、施設の栄養士という立場でどのように取り組んでいくか戸惑うことも沢山ありましたが、他職種の方々に食事の事だけでなく様々な事を学び、利用者様とも積極的に交流を持つことで色々な視点から物事を考えられるようになってきました。

また、学校で習ったような知識を現場でどのように活かせばよいか分からず戸惑うことも多くありました。半年間勤めて、専門的な知識は利用者様一人一人をよく知ることから始まり、他職種の方々から情報を得、協力を得ることで初めて活かすことができるのだと感じました。

また、食事を提供してくださる委託業者との連携も欠かせません。今後は、調理などの知識も含め、利用者様の声を食事に活かせるよう積極的に行動していきたいと思えます。

今、やっと周囲を見渡せるようになってきました。栄養士から管理栄養士となり、もっと色々な事に積極的にチャレンジして利用者様により良い支援ができるよう向上心を持って努めていきたいと思えます。



仁生園

ケアワーカー

奥村 恵子

十月より一―三班に配置替えが決まり、三日が出勤日初日になりました。この日はちょうど仁生園四十周年記念式典の日であり、通常業務とは異なるスケジュールの中でのスタート。図らずも当日は、お年寄りの付き添いとして式典に参加し、樋口恵子先生の講演を拝聴させて頂く事ができました。樋口先生は『これからは、人生百年という枠の中で考えていく必要がある』『“働く”とは、傍を楽にする事』というお話をされました。

私は今回の配置替えで、ちようど各フロアを全て回ることになります。この間八年が経過。ここまで続けられた事に自分でも本当に驚いています。この歴史が刻めたのも、厳しくも優しい先輩方を初め、「とにかく一日一日。今日を頑張ろうよ」と励ましてくれた職場の皆さんのお蔭、そして利用者様の笑顔に励まされたお蔭であると実感しています。

仁生園の利用者様も八十代、九十代が当たり前になっており、高齢化の加速と共に介護現場はますます厳しい現状になっています。これからの不安を抱えながらも、職場の人間関係に恵まれたことに心から感謝し、新しい環境に一日も早く慣れ、傍を楽にできるよう、そして何より利用者様の気持ちに応えられる働きが出来るよう頑張りたいと思えます。